

＜小学校 生活科＞

一人ひとりの児童の思いや願いを生かす学習活動の工夫

～身近な人々や自然とのかかわりを通して～

与那原町立 与那原小学校 教諭 金城 清 美

指導講師 佐敷町立佐敷小学校教諭 糸 数 ハツ子

内容要約

身近な人々や自然とのかかわりを通して、一人ひとりの思いや願いを生かした学習活動の展開の仕方を工夫し、さらに、子どもの思いや願いを生かした学習計画を立て、効果的な支援や、児童が意欲的に取り組める教材の工夫をした。その結果、児童たちの生き生きと活動する姿が見られるようになった。また、満足感や充実感を味わうことによって、それが次への意欲になり、主体的な態度が芽生えてきた。

【キーワード】 身近な自然・地域教材・環境構成・支援

目 次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究仮説	61
III	研究の全体構想図	62
IV	研究内容	62
1	児童が学習に興味・関心を持ち、意欲的に取り組める教材の工夫	62
2	児童が体験を通して気づき、主体的に活動することができる支援のあり方	64
3	一人ひとりの児童の思いや願いを生かした、学習活動の工夫	65
V	授業実践	65
1	単元名	65
2	単元設定の理由	65
3	単元の指導目標	65
4	単元の指導計画と配当時間	66
5	観点別評価基準	67
6	本時の学習指導	67
7	ワークシートに見る児童の姿	69
8	児童の変容	69
VI	研究の成果と今後の課題	69

<小学校 生活科>

一人ひとりの児童の思いや願いを生かす学習活動の工夫

～ 身近な人々や自然とのかかわりを通して ～

与那原町立与那原小学校教諭 金城 清 美

I テーマ設定の理由

新学習指導要領によると、生活科の「改善の基本方針」の一つとして、特に児童が、身近な人や社会・自然と直接関わる活動や体験をあげている。その背景に、人と人とのかかわりが希薄化した今日の児童の現状から、多様な人々との関わりの重要性をあげている。

本学級児童の遊びの実態を調べたところ、帰宅後は、家の中でテレビを見たり、ファミコンゲームなどをして過ごしている児童が多く、友達や自然に直接関わりながらの遊びは少ないことが分かった。また、祖父母と同居の児童が少なく、核家族や少子家庭のため、人間的なかかわり合いも乏しいようである。

これらのことは、児童が生活科の学習で体験したことの実生活への結びつきや、社会性の欠如などの要因にもなっている。

生活科の授業においては、児童が具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養うための一つの手立てとして、身近な自然や身の回りにある物を使っての製作活動及び遊びを楽しむことを取り入れている。

自然体験の豊富な児童は、自分から進んで材料を集めたり、豊かな発想で製作に工夫を凝らしたりできる。ところが、材料を目の前にしても、何をしたいか分からず、主体的に製作活動に取り組めない児童もいる。

一般的に、自然物とかかわって遊ぶ体験が少ないためか、草花や木の実を集めたりするのは好きであるが、それを使って遊ぶものを作ったり、作ったもので遊んだりする姿があまり見られない。

その背景に、地域素材を生かした学習活動が年間を通して少なかったことや、児童の興味・関心を高め、一人ひとりの思いや願いを生かした学習活動が十分でなかったこと等が原因にあげられる。

これらの反省を踏まえ、生活科の学習において、思いや願いを持って主体的に活動する児童を育てるためには、まず、児童の創造力を揺さぶるような魅力ある教材との出会いが大切であると考え。そのためには、学校を含めた地域の人材や自然を視野に入れた教材の開発が肝要となる。さらに、児童の興味・関心が高まり、一人ひとりの思いや願いが生かせるような学習活動の展開の工夫も重要である。

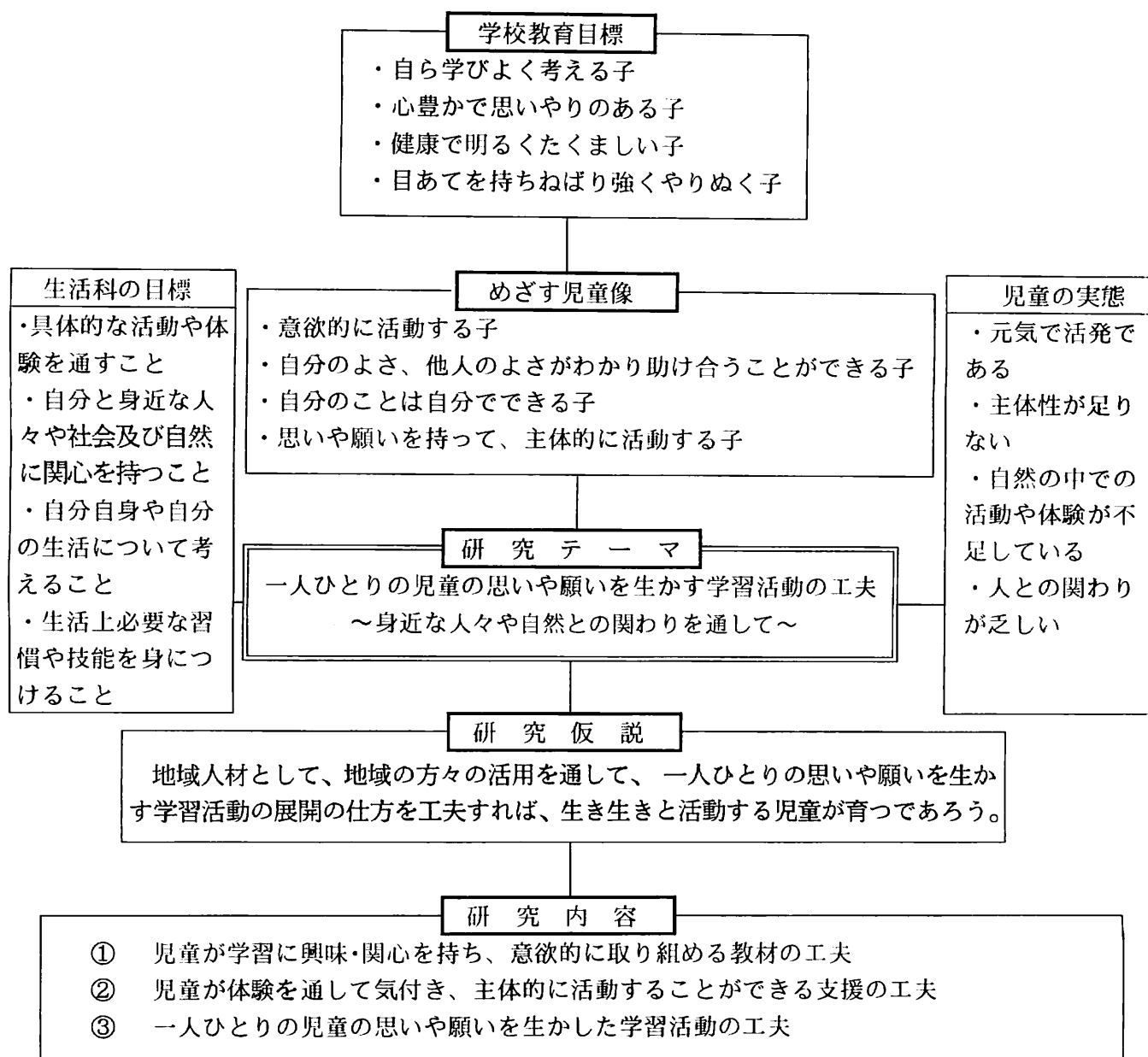
本研究の実践に当たっては、以上のことを踏まえて、実際に児童の祖父母の方々を教育ボランティアとして招き、身近な自然も教材として活用し授業を展開することとした。

このように、身近な人々や社会・自然とかかわった学習活動を通して、児童一人ひとりが自分の思いや願いを生かすことにより、人と適切に接したり、集団や社会の一員として自分のあり方を考えたりできるようになるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

地域人材として、地域の方々の活用を通して、一人ひとりの思いや願いを生かす学習活動の展開の仕方を工夫すれば、生き生きと活動する児童が育つであろう。

Ⅲ 研究の全体構想図



Ⅳ 研究内容

1 児童が学習に興味・関心を持ち、意欲的に取り組める教材の工夫

生活科においては、学習材を選択する観点として、児童が直接かかわることができるものが第一にあげられる。『小学校学習指導要領解説生活編』（文部省）において「生活科は、児童の生活圏である学校、家庭、地域が学習の場となる」と示されているように、地域は児童にとって生活の場であるとともに学習の場でもある。そこで、今回の研究の第一歩として地域教材の開発を試みることにした。

(1) 地域人材として身近な人々の活用

児童の思いや願いを重視した学習活動の展開を考えると、学習内容をより深めるために地域人材を効果的に活用することが大切な場合がある。児童たちの身近な人々として、地域の方々にゲストティーチャーのひとりとして授業に協力してもらうことにより、学習活動の広がりや深まりとともに、「人の温かさ」にも触れることができ充実した時間となる。

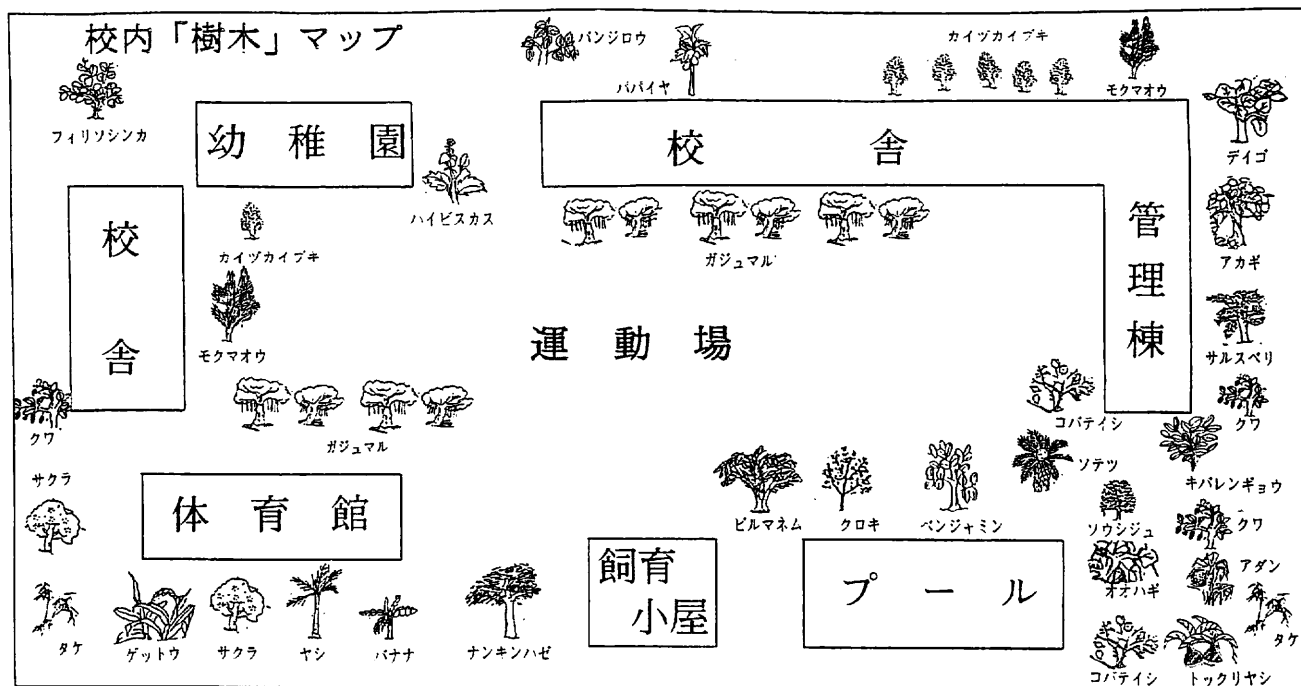
《 地域人材の活用の手順 》

- ① 学習構想を立てる。
- ② アンケートや児童からの聞きとり等により、協力してもらえる人材を見出す。
- ③ 地域の方への主旨説明や協力の依頼を文書や電話等でおこなう。
- ④ 協力してもらった方々へ児童からの手紙や学校からの公文でお礼をする。

(2) 地域素材の教材化

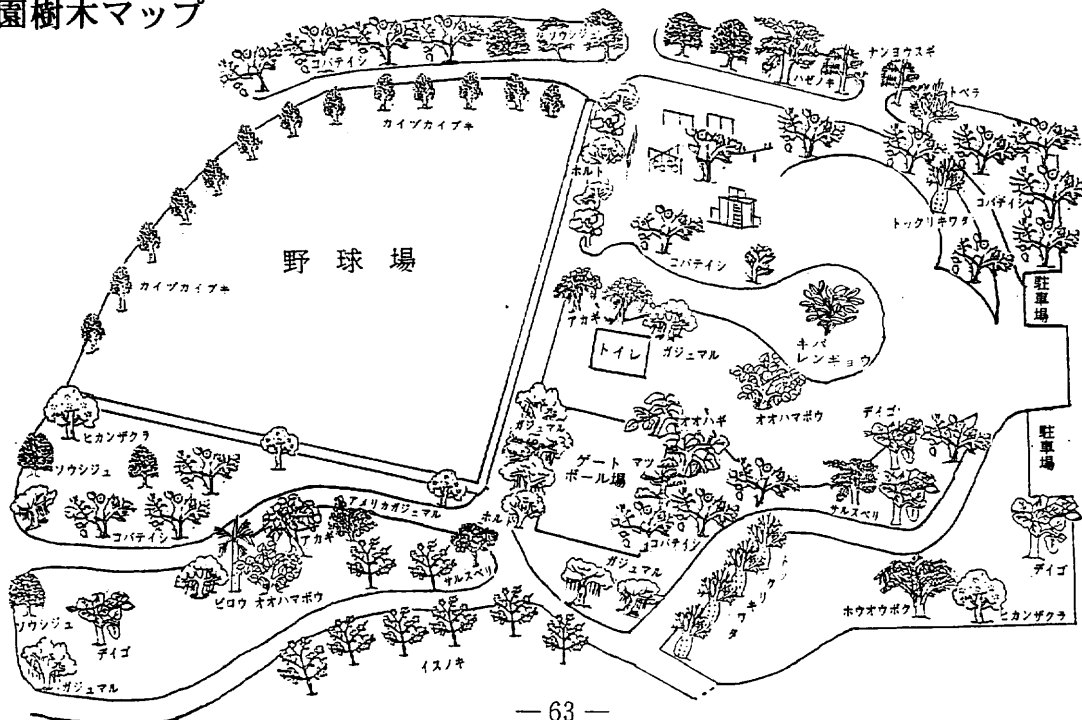
生活科の授業では、児童の最も身近な生活の場であるところの学校内や学校周辺から学習素材を探すことが大切である。今回は、校内では樹木マップ【図1】を、そして、地域素材の一つとして公園の樹木マップ【図2】を作成した。活用できる単位には、本研究の検証授業『むかしのあそびをしよう』の他に「がっこうたんけん」「木となかよしになろう」「こうえんであそぼう」「あきとあそぼそぶものをつくろう」等がある。

【図1】



与原公園樹木マップ

【図2】



2 児童が体験を通して気付き、主体的に活動することができる支援のあり方

支援とは、一人ひとりの児童の活動がよりよいものになるように温かく見守り、共感し、児童のよさや可能性を引き出し、より主体的に活動できるように援助する教師の教育活動であると考える。

そこで、児童が、一つのことを解決したり完成させたりしたときに、自己実現の充実感を味わい、自主性が芽生えてくるような援助のあり方を考えてみた。

まず、学習過程を「みつける」「めあてをもつ」「やってみる」「ふりかえる」の活動に分けた。そして、その活動ごとに児童の思いや願いをしっかりと受け止め、活動を温かく見守ることができるような、支援の方法や事例について考えてみた。それを具体的な支援や支援事例として下記の表にまとめた。

<主体的に活動するための支援の工夫>

学習課程	環境構成	支 援	支 援 事 例
み つ け る	児童がやってみたく なるような活動をイ メージできるように する ・生活経験・学習経験 ・身近な社会や人々 ・身近な自然	(その気にさせる)〈動機付け〉 ・学習環境の整備 ・児童の思いや願いを生かした学習 計画 ・学習活動への興味・関心を持たせる	・いろいろな遊びがあるね ・こんなものがあったよ ・どうすればいいかな ・どうやって使うのかな ・だれに聞けばわかるか な
め あ て を も つ	児童がやってみたく なるような教材を選 択する	(引き出す) ・一斉、または、個のめあてが持て るようにする ・活動の見通しをもたせる	・どんな遊びがしたい ・とてもいいアイディア だね ・こんなこともやってみ るとおもしろいよ ・おもしろそうだね
や っ て み る	児童が思いや願いを 達成できるように、 思いきり活動できる 場やスペースを準備 する ・教室の机の配置 ・児童の希望場所 ・材料、道具の準備 広いスペースを十分 確保する ・見渡せる ・友達との関わり ・対象への関わり ・自由な移動	(見守る、認める、相談相手にな る) ・個々のめあてが実現できるように する ・情報を提供する ・一緒に活動する ・教える ・共感する ・賞賛する	・とてもじょうずだね ・どうやってやったの 教えてね ・この本にこんなやり方 がのっているよ ・こんなにするといいん だね ・こんなやり方もあるん だね ・いっしょにやってみよ う ・あと少しだね できたら先生にみせてね
ふ り か え る	発表は多様な形式を 工夫するようにする ・個の発表 ・グループごとの発 表	(生かす) (発展させる) ・気付いたことやできるようになっ たこと、友だちのよさなどを生活に 生かす ・新たな課題をみだし、新たな意 欲をもたせる	・みんな協力して自分で 考えて自分の力でできた ね ・みんなにも教えてね ・家の人にも見せてあ げるといいね

3 一人ひとりの児童の思いや願いを生かした、学習活動の工夫

(1) 児童の思いや願いと学習意欲

生活科において、体験的活動から生じた児童の思いや願いは、能動的な活動を誘い、内発的な学習意欲を喚起する。このことによって学習活動は、主体的に継続し、展開していく。児童にとって、してみたいこと、せずにはいられないことが、連続していくようにする。そうした中で、次第に自分のめあてがはっきりし、見通しが立ってくる。こうした自己実現の能力や態度こそが大切なのである。

(2) 児童の思いや願いを大切にしたい学習過程の工夫。

- ① 導入時における活動意欲を引き出せるよう、興味・関心や感動を呼び起こすような学習素材との意図的・体験的な出会わせ方の工夫。
- ② ぜひ活動したいという「思いや願い」にまで高まるよう、一人ひとりの「思いや願い」に応じた手立ての工夫。
- ③ 「思いや願い」がふくらむよう児童の内面を共感的に捉え、自信と意欲を持たせるような一人ひとりへのかけわり方の工夫。
- ④ 一人ひとりの「思いや願い」が具体的な活動・体験として実現するような場の保証と環境構成。
- ⑤ 一人ひとりに表現活動が成立するよう、言葉、絵、動作、劇化など、一人ひとりに合った表現方法についての具体的な見通し。
- ⑥ 生活科で獲得した自信や意欲が、児童の生活に生きて働くよう家庭や地域社会との連絡・連携を強化した児童への支援態勢。

V 授業実践

1 単元名 「むかしのあそびをしよう」

2 単元設定の理由

- (1) 教材観 (省略)
- (2) 児童観 (省略)
- (3) 指導観

本単元では、手作りのおもちゃに関心をもたせるために、身近にいるお年寄りから昔あそびを教わったり一緒に遊んだりすることにより、昔ながらの手作りおもちゃのあたたかさや遊びの楽しさを味わわせたい。また、お年寄りとの遊びを通してお年寄りの知恵のすばらしさやあたたかさを感じ取らせ、祖父母との心のつながりを一層深めさせていきたい。さらに、身近な素材を利用し、友だちと協力しながら遊ぶものを製作する活動を体験させることにより、遊びの世界を広げ、仲間と楽しく遊ぼうとする態度や自ら遊びを作り出そうとする意欲を育てたい。

3 単元の指導目標

- (1) 身近にいるお年寄りから話を聞いたり遊んだりして、昔からある遊びや手作りおもちゃの作り方に興味を持つことができる。
＜関心・意欲・態度＞
- (2) 聞いてきたことを発表したり、友達の発表を聞いたりして、自分や他人のよさを認めることができる。
＜思考・表現＞
- (3) お年寄りや友だちと積極的にかかわり、一緒に楽しく遊ぶことができる。
＜思考・表現＞
- (4) 昔遊びの楽しさや手作りおもちゃのよさに気付くことができる。
＜気付き＞

4 単元の指導計画と配当時間

(児童の意識の流れ)

教師の思い

遊かを
や遊び
ち、昔
も中、遊
おのい
の多わ
製のら
既び

なんだろう

これ昔遊
びだ

「本にもいろいろ遊びがのっているよ」

何か作れ
そうさ

おもしろう
もだ。てみ

休み時間

幼稚園の時
やったことが

やってみよう

くない

どう
やってやる
のかな

もっという
いろいろな遊びが
ありそう

ほかにも
ないかな

昔の遊びについて調べよう

(1時)

家の人に聞いてこよう

やってみよう

みつけた

- みんな楽しそう
- でもわからない
- どうやってやるのかな
- 先生教えて
- うちのおじいちゃんならわかるかもしれない

聞いてきたことを発表しよう

- ・竹馬
- ・めんこ
- ・石けり
- ・まりつき
- ・お手玉
- ・こままわし

(3時) 〈国語〉

(学校にきてもらって教えてもらおう)——

お手紙を書こう

(4時)

やりたいものを決めよう

(5時) 〈学級活動〉

昔遊び会の計画を立てよう

(6時)

招待状を書こう

(7・8時) 《本時》

昔遊びを教えてください

...を
また
やりたいわ

楽しかった
ね

教えても
つたよ

事前の打ち合わせ
ゲストティーチャー
の方に学習のねら
い、これまでの経
過、交流の方法を知
らせる

できたよ

上手にできるよ
うになったら、おじ
いちゃん、おばあ
ちゃんたちに見せ
たいな

昔遊びの楽しかったことを絵や作文に書こう

(9時)

(10時) 〈国語〉

おじいさん、おばあさんにお礼のお手紙を書こう

➤ 自慢大会をしよう (学芸会)

幼稚園との交流会

5 観点別評価基準

観点 目標	生活への関心・意欲 ・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分自身につい ての気付き
評価 目標	・身近な人々の話を聞き、昔の遊びに関心を持つことができる。 ・おじいさん、おばあさんや友だちと楽しく遊ぶことができる。	・おじいさん、おばあさんと積極的に関わり遊びを教えてもらうことができる ・おじいさん、おばあさんや友だちと遊んだことや楽しかったことを絵や文で表現することができる。 ・お世話になったおじいさん、おばあさんにお礼の手紙を書くことができる。	・昔ながらの手作りおもちゃのよさや、お年寄りの知恵のすばらしさや温かさに気付くことができる。 ・身のまわりにある物や自然を使って、おもちゃが作れることに気付くことができる。

番号	児童名	めあて	関心・意欲 態度	思考 表現	気付き	児童の良さ・変容
1	S・H	・石なぐーをしたい	◎	◎	◎	・最初はできなかった石なぐーができるようになって家でもやっている
2	S・O	・お手玉が上手になりたい	○	◎	◎	・教えてもらったおばあさんのことをお手玉が上手だったと感心していた
3	Y・K	・紙でつぼうを作って遊びたい	◎	◎	○	・上手になったら、おじいさんおばあさんに見せたいと次の活動を考えていた
4	N・U	・あやとりを習いたい	◎	◎	○	・二段ばしごを習ってとてもうれしかったと報告していた

6 本時の学習指導

(1) 主題名 「むかしのお遊びをしよう」

(2) 本時の指導目標

お年寄りや友だちと積極的にかかわり、思いや願いを持って一緒に楽しく遊ぶことができる。

(3) 授業の仮説

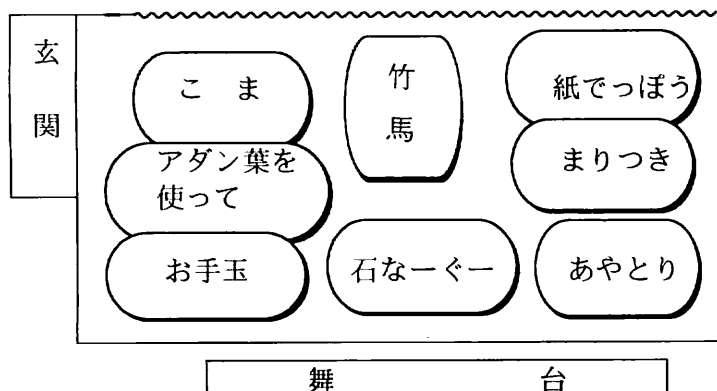
お年寄りに教えてもらったり、遊びのコーナーを設けたり、活動場所を広くしたりするなど、活動環境を工夫すれば、児童は思いや願いの実現に向けて、楽しく遊ぶことができるであろう。

(4) 展開

時	学習活動	児童の反応・教師の支援	評価・資料
み つ け る	1. おじいさん、おばあさんを迎える 2. 今日のめあてを発表する ※やくそく ①安全に気をつける ②後片付けをきちんとする ③遊びが終わったら静かに集まる	・全員で歓迎のあいさつをする ・遊びたいこと、作りたい物を発表させ、やる気を喚起する ・遊ぶときの約束を確認する ・おじいさん・おばあさんの自己紹介と遊びの紹介をする	・入場の曲を流す ・一人一人のめあてを掲示する ・プログラムを掲示する

や っ て み る	3. おじいさん、おばあさん、友達と楽しく遊ぶ ・あやとり ・アダンの葉を使って ・石な一ぐる ・まりつき ・かみでっぼう ・こままわし ・お手玉 ・竹馬  4. 後片付けをする	・8つの遊びのコーナーを設け児童が思い切り遊べるように環境構成を工夫する ・おじいさん、おばあさんに実演してもらい、早く遊びたいという意欲を高める ・教えてもらう人の話をしっかりと聞くようにさせる あやとりって たのしいね おじいさん、 おばあさん じょうずだね 遊びの仲間に入れない児童には、声かけをしたり、なかよしの子にさそってもらったりしてきっかけをつくってあげる いっしょにやろうよ あれもやってみよう わあいできたよ ・児童の活動に共感し、一緒になって楽しむ ・児童一人ひとりの思いや願いを大切に楽しく遊ぶことができるようにする ・楽しく遊んでいる児童を認め、励まし遊びが広がったり深まったりするように支援する	・おじいさん、おばあさんと楽しく遊ぶことができる (関・意・態) ・BGM (わらべ歌メロデー) ・おじいさん、おばあさんと積極的にかかわり、遊び方を教えてもらったり一緒に遊んだりすることができる (思考・表現)
ふ り か え る	5. 楽しかったことやがんばったことを発表する 6. お礼の言葉を全員で言う	・できるようになったこと、おじいさんおばあさんや友達と楽しく遊んだことを発表させ共に学ぶことで満足感を味わわせる ・教師が児童の発表に共感することによって児童が自分のよさや他人の良さに気付くようにさせる おじいさん、おばあさん たのしかったね またきてね ありがとう ございました	・遊んで楽しかったことを発表することができる (思考・表現) ・退場の曲を流す

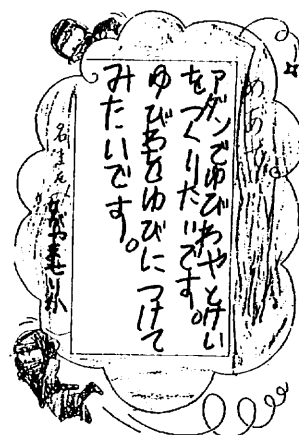
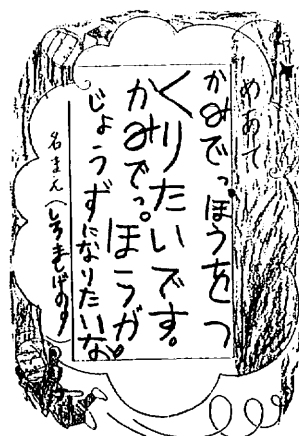
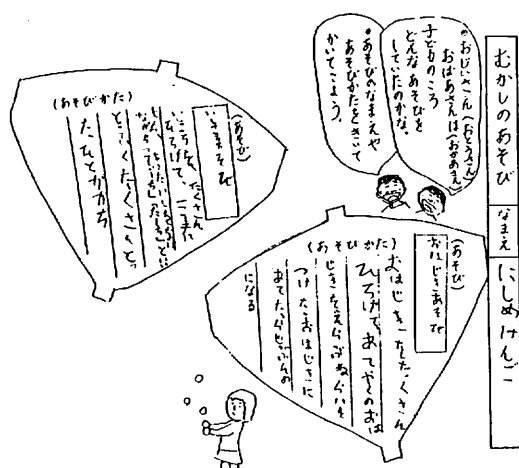
(5) 場の設定 (体育館)



(6) 準備

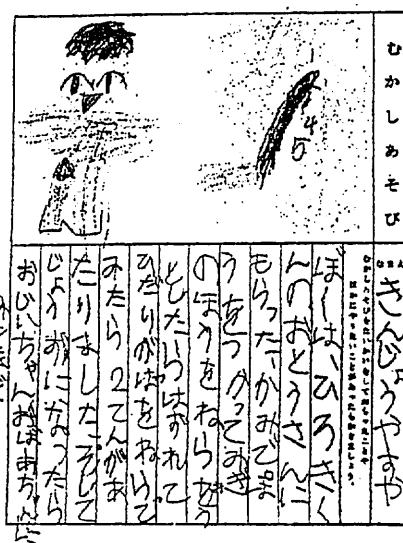
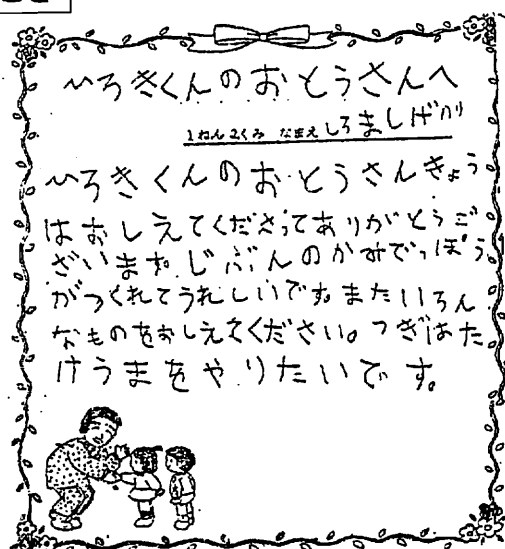
- ・ビニールシート
- ・ござ
- ・こま
- ・テープレコーダー
- ・プログラム
- ・お手玉
- ・まり
- ・毛糸
- ・竹
- ・アダンの葉
- ・石ころ
- ・竹馬
- ・カッター
- ・はさみ
- ・その他
- ・(入退場の曲、BGM、後かたづけの曲)

7 ワークシートに見る児童の姿



めあて

聞いてきたこと



案内状

お礼のお手紙

楽しかったこと

8 授業の考察

本単元では、身近にいるお年寄りからお話を聞いたり、昔からある遊びや、身近にある自然を使った手作りおもちゃに関心を持つ、というねらいを達成するために学習過程や場の設定などの工夫を行ってきた。その結果、児童は、『めあて』が自分の思いや願いのとおり達成できたとき、喜びや充実感を味わうということがわかった。また、交流を通してお年寄りの知恵や素晴らしさも発見したようである。

協力してくれたお年寄りの方々からも、「久しぶりに子供に戻った気分で楽しかったです。機会があったら、また遊びたいです。」と、次回への期待の声も聞くことができた。

しかし、「もっと遊びたかったが時間が足りなかった。」という感想をもった児童や、作るのに時間がかかりすぎて思うように遊べなかった児童もいた。

このことから、遊びの種類によっては、ゲストティーチャーとの細かい打ち合わせの必要性があると感じた。また、他の遊びもやってみたくなった児童もいたことや、遊びの日常化を図る意味からも、休み時間や休憩時間に自由に遊べるような場所の確保も大切であると感じた。

9 児童の変容（実践を終えて）

思いや願いをもって活動に取り組み、それが実現できたとき、児童は「できたあ」「やったあ」という満足感や充実感を覚え、さらに、「もっとやりたい」「こんどは、〇〇をしたい」などと新たな思いや願いをもつようになり、それが次の活動の意欲となっていく。

児童は、本単元の学習についての感想として「ふりかえり」の活動において、めあてをもって挑戦しようとする意欲、できた時の喜び、気づき、驚きと発見などを次のように書いている。

- ・石なーぐーは最初、下手だったけど、どんどんなれて楽しかったよ。おうちでもできたよ。
- ・紙でっぽうを作ったよ。次は竹馬をやりたいな。
- ・お手玉と竹馬をやったよ。もっと時間があつたらこま回しもやりたかったな。
- ・紙でっぽうをつくったよ。上手になったらおじいちゃんおばあちゃんに見せたいな。
- ・〇〇君のおばあちゃんにお手玉を教えてもらったよ。〇〇君のおばあちゃんはお手玉がとても上手だったよ。
- ・紙でっぽうの作り方を教えてもらったよ。玉が的にあたってはね返ったとき、とてもびっくりしたよ。
- ・まりつきをやったよ。上手になったのでよかったです。
- ・紙でっぽうを教えてもらったよ。玉を入れてうったらけむりが出たよ。

A男の変容

「むかしあそびをしよう」の学習過程の活動において、A男は「～がはやくしたいなあ」と思いや願いをはっきり持って活動に臨んだ。しかし、「めあて」の発表のとき挙手をして指名はされたものの発表をすることはできなかった。遊ぶ活動のときは、すぐに活動に取りかかり遊びに没頭することができた。その間、始終笑顔で充実感にあふれているようだった。片付けの段階では、名残惜しそうにして中々片付けないでいた。活動の終わりの感想の発表のときは、すぐに手を上げ、大きな声で堂々と発表することができた。できあがった紙でっぽうを手にしたその顔は、満足感でいっぱいという感じであった。その後、A男は、「ふりかえり」の活動において、「とても楽しかった」「もっと練習しておばあちゃんたちに見せたい」「おじいちゃんおばあちゃんを招待して見せよう」と次時への意欲も見せていた。普段、わんぱくで物おじなどしない反面、改まった場所では緊張して言いたいことが言えなくなるA男だが、今回の授業ではそれを見事に克服した。このA男の例は、自分の思いや願いが実現できたとき、それが自信につながることを示したといえる。

VI 研究の成果と今後の課題

「身近な人々とかかわり」を通して「一人ひとりの思いや願いを生かす学習活動の工夫」をテーマに本研究を進めてきた。

実践を終えて、児童は、学習活動に自分の思いや願いが生かされたとき、いきいきと活動し、充実感や満足感を味わい、それが次への意欲につながり主体的な態度の芽生えとなることを実感した。それに、身近な人々とかかわりを持つことにより、自ら、対象にかかわったり教えあったりするなど、活動が広がるとともに気付きが深まることも実感した。また、場の設定の工夫や具体物の提示など、環境構成における支援の工夫をしたことにより、活動への動機付けや意欲の高まりにつながったことも研究の成果だと考える。

今後の課題としては、次のようなことがあげられる。

- 地域素材の発掘および教材化と単元への位置付け
- 活動内容に合わせた地域人材の効果的な活用
- 学校と地域・家庭との連携及び協力体制の確立

<主な参考文献>

文部省	『新しい学力観に立つ生活科の学習指導の創造』	東洋館出版社	1993年
文部省	『新しい学力観に立つ生活科の授業の工夫』	大日本図書	1995年
中野重人編著	『生活科指導事例集』	第一法規	1991年
沖縄県教育委員会	『生活科指導資料』	沖縄県教育委員会	1996年